

【随 筆】

今年もタンチョウの バンディング調査です

住 吉 尚
(釧路支部)

この時期の話は毎年のことですが8月号が学会特別号になりますので、9月号には6月から7月にかけてのことが載ることになります。ご勘弁をお願いします。

今年も昨年と同じで6月14日に北獣代議員会がありました。代議員会の開始前、午前中に理事会がありますから前日に札幌に入ります。釧路から午後1時過ぎの特急に乗りました。ぼーっと外を見ていると森の木々に花が咲いているのが見えます。最も目立つのはニセアカシアでしょうか。名前に「ニセ」とはと議論になったことがありましたね。でも学名に「ニセの」とつくのはごく普通のことですよね。英語風には「シュード何とか」、ドイツ語風には「プソイド何とか」でしょうか。ラテン語では何と発音するのが良いのか私は知りません。これは外来種ですから街の近くにだけ生えているようですが、これ以上増えないでほしい種です。天然林に目立つのは大きな花を付けるホオノキです。マグノリア属の中でも最も古いタイプの植物と言われていますが、大きな葉に囲まれて枝の先端に花が咲くので、木を下から見上げても花はなかなか見えません。幸い列車の窓からは森を見下ろすところが多いのでホオノキの花も良く見えます。あとはミズキとシナノキでしょうか。マタタビの白い葉も良く目立ちますね。色々な花が咲いているようですが、なんと言っても特急の窓から見える世界です。遠いと種が特定できません。近いと早すぎて焦点が定まりません。なんだか分からないうちに札幌到着です。こうして6月半ばは過ぎて行きました。

さて6月後半になると例年のごとくタンチョウのバンディング調査が始まります。今年の初日は24日土曜日でした。朝7時釧路出発で十勝へ。「本別道の駅」が集合場所です。曇り空で絶好の捕獲日和です。晴天だとこの時期ですから暑くなります。こうなるとタンチョウは日陰に入ってしまうので発見が難しくなるのです。捕獲予定地はここから更に1時間以上走った陸別町の更に山間部です。ターゲットの家族は幸い農家の堆肥山に付いているようです。私たちは川沿いの牧草地の縁でヒナが逃



ホウノキの花



ミズキでしょうか

げてきたところを捕獲しようと待ち構えています。追い出しに入ったメンバーから無線です。私ともうひとりとは農家からの追い出しに加勢してほしいとのこと。サー急いで！と思いましたが車のエンジンがかかりません。ここに来るまで皆が乗っていたレンタカーで、運転者は釧路から運転してきたメンバーです。何度やってもキーが回りません。やむなく近くにいたもう1台の車で行くことに。私達が農家の庭先に到着すると、そちらから回れとの指示が。なんだかわからないまま進むと間もなくです。先ほどまで私たちがいた、広い牧草地の川側の外れに展開していたメンバーから「ヒナが走り出した！」。そして間もなく「捕獲！」のコールが。こうしてバンディング調査初日は1羽を捕獲して終了です。作業終了後、今度は私が先ほどの車のエンジンをかけてみました。すると一発でエンジンがかかったではありませんか。急ぐと上手くいかないこともあるのですね。

翌25日も十勝です。天気が良く暑い日でした。場所は豊頃周辺でした。十勝川の豊頃大橋の橋脚に小さな中洲があり、ここでヒナ1羽を連れた家族が見えています。日陰なので、お休みしているようでした。でもこれに手出しをするのは難しそうなので他を探しましたが見当た

りません。やむなく橋の下を家族を狙うことに。橋の下流側からひとりが川岸に迫り上げ、橋の上流側の草地で捕獲をするという作戦で、展開を始めました。私たちが橋の下に到着すると、橋の下流側に背の低い草地があるのが見えたので、私はこの草地を囲うように人員を配置しました。上流側に入ったメンバーからは「川との間が急な崖になっているので、橋の上流側にはタンチョウが上れない様だ。」との無線が。それではと、上流側のメンバーには「橋に沿って下流側の草地を囲むように」と連絡しました。すると間もなくです。やはり下流側の草地にタンチョウの家族が出てきました。ここからは橋の上にいるメンバーの指示で動きます。ヤブの中ですから囲んでいるメンバーからはヒナが見えません。でも真上の橋の上から見ているメンバーには丸見えです。誰の左！誰の真ん前2m！と指示が出るので簡単に捕獲ができました。さて昼食後にヒナ探しをしていると、草刈りをしているトラクターの近くでヒナを連れた家族を見つけました。早速トラクターのおじさんに立ち入りの許可をもらい、家族を囲います。私たちは浦幌川の対岸から、この草地の裏側で川の中に並ぶことに。私は何とか川に

入りましたが私の上流側のメンバーは川岸が崖になっているので降りられないとの無線が。「遠回りしてでも川に降りてください」と私もコールします。しばらくして何とか我々は川に並びました。対岸の草地班からは「川と牧草地の間のヤブにヒナが入った！」との無線が。川の中にひとり残して我々もこのヤブの搜索に入りました。すると私の前に草地班のメンバーがいて「目の前にヒナがいる」と。でも私には見えません。すると「ヒナは川に逃げ込んだ！」と。川に残したメンバーが走ります。ヤブの搜索をしていたメンバーも川の中へと走ります。ここで私も気づきました。対岸は崖でヒナが登れません。こちらのヤブか川の中で捕獲できるでしょう。ここは予想通りに川からヤブに上ろうとしているヒナに追いついたメンバーから捕獲のコールが。これで本日2羽目の捕獲です。やれやれです。

次は28日、場所は標茶町内です。まずは農家の庭先にいたヒナがターゲットでしたが、囲うはずだった私たちの班が配置に着く前にヒナは深いヤブへと逃げ込み、失敗です。それではと北へ移動しターゲット探しをしていると、道路脇の水路沿いのヤブにタンチョウが2羽見えます。私の前に通ったメンバーはヒナも見たといいましたから、ヒナが見えないままこれを囲います。「そこの少し大きな木の下にいるはず、逃げ出さないように囲って！」と私が叫びます。やはりそこにヒナがいました。このヒナの採血をしていると、手が空いたメンバーが戻って来て「直ぐ近くにヒナ2羽連れがいる！」と。ここでの採血を終わらせて直ぐそちらに走ります。この家族は農家の庭先の草地でのんびり餌探しをしていました。我々の車はヒナを横目に見ながら農家へ行き、草地での捕獲作業の許可をもらいます。他の車はすでに2方向を止めるように路上にいますから、「さらに奥に行かないように走って！」とリーダーが叫びます。1羽はその包囲網で捕獲できましたが、もう1羽はなんと私がいる農家の取り付け道を越えて逃げようとしています。私はあわてて逃げ道をふさぎます。元の草地に戻ろうとしたヒナに道路脇のヤブで追いついたので捕獲です。私がですよ！しかも走ってですよ！ヒナも「今日はどじった！」と思ったでしょうね。午後からはもう1カ所。場所はズいぶん西側に外れた沼幌でした。我々が呼ばれて到着し、包囲網に加わったのですが時すでに遅く、囲いの中にはいないようです。包囲を解いて更にヒナ連れを探すことに。すると、先ほど囲っていた場所の道路反対側の草地に別のヒナ連れが見つかりました。かなり広い草地の奥を我々は囲う役目です。ヤブを越えテクテク歩きます。



豊頃大橋の下で



浦幌川の河原で

やっとタンチョウの裏が取れ、包囲網が絞られます。こうして無事捕獲に成功。本日の4羽目です。それにしても標茶方面にはたくさんのヒナ連れがいます。

さて1日置いて30日です。今日はタンチョウではありません。これも例年のごとくではありますが、友人とチョウチョ採りです。さて「どこに行くの？」友人は迷うことなく、「例の初田牛駅跡だ！」とのこと。そうなんです。もう何年も探し続けているカラフトタカネキマダラセセリが欲しいのです。私は、今年は暑いし6月も終わりだしダメだろうなー。なんて勝手に想像しながら車を走らせます。さて目的地に着いて探し始めると間もなくです。なんと私の目の前にそのチョウがいるではありませんか。こうして私が3羽、友人が4羽採って大満足な一日となりました。翌7月1日は十勝池田駅集合です。私は友人を6時にホテルに迎えに行き、レンタカーに乗って出発です。でもこの日は2戦して2敗、1羽も採れずに帰って来ました。翌2日は近郊の山花桜田地区です。ここは集合場所が家から近いので私は友人を載せて自分の車で「山花リフレ」まで行きます。途中少し寄り道をすると、直ぐ近くにヒナ1羽を連れた家族を見つけました。全員が集合して、挨拶もそこそこに、そのヒナ連れを狙うことに。本隊は農家に立ち入りの許可をもらい、南側から列を作って攻める。私は別動隊として2台で北側の農道から囲う。との作戦です。草地の中にある明渠にそってヤブがあるので、南側のメンバーからはタンチョウが見えません。「農道上の私の車と後ろの環境省の車の間にタンチョウがいる！」、「真ん中に少し大きな木があるがそこにいる！」と叫びます。元気そうな若者に「草地端をまっすぐ行って横に逃げられないようにしてくれ！」反対側は環境省の若者に「そちらも同じようにツルにかまわずまっすぐ行って！」と指示。これは簡単に上手く捕獲できました。さて作業終了となりましたが、私のカメラがありません。カメラ落としたかな？皆が探してくれましたが見つかりません。待てよ！今日は持ってきたのか？家に電話をしました。妻が「カメラならテーブルの上にあるよ！」と。「皆さんお騒がせしました。勘違いでした。」とお恥ずかしい限りです。やはり歳のせいでしょうか？午後からもう1羽を囲うことにしたのですが、逃げられてしまい本日は1羽だけでした。さて7月3日はまたまたチョウチョ採りでしたが、この日は北見方面まで足を延ばしましたが収穫なしで終わりました。アゲハチョウはちょうど春型と夏型の間で発生がない時期だったようでした。こうして友人は千葉へと帰って行きましたが、私はまだまだ次があります。

次は7月6日、この日は北見管内能取湖に大遠征でした。ここは昨年失敗しているので、「今年こそは」と皆さん力が入っています。さて、到着して見ると、エー！全員口あんぐり、でした。タンチョウが出て来るはずの干潟は潮干狩りの人たちがいっぱいです。そして私たちの横を次々干潟に向かって潮干狩りの人たちが出ていきます。こんなはずではなかった！天候も良く、潮も申し分ないほど引いています。そうです潮干狩りにも絶好の日なんです。平日なのですがね。でも仕方ありません。早めの昼食を食べ、潮が満ち始めて人が減ったタイミングでタンチョウが出てきたので囲おうとしましたが、やはり未だ人がいて干潟の奥まで余り出なかったと言うこともあり、取り逃がしてしまいました。昨年に続いて2連敗です。今度こそー！

ところで、7月号にシラネアオイの話を書きましたが、十勝の猪股先生が「我が家のシラネアオイは花のすぐ下の葉が丸い。」と写真を見せられました。私の家の庭にあるのは、ほかの葉よりは切れ込みが浅いものの丸くはありません。私が持っている3種類の図鑑は全部私の持っているシラネアオイと同じ絵が描かれています。この違いについて何か知見がある方はぜひご連絡を。



我が家のシラネアオイ



猪股家のシラネアオイ